

勿凝学問 317

今や、デフレだけが、社会保障の味方——敵の敵は味方という話

2010年6月28日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

ホームページの5月31日のところに、次を書いていますね。

- 僕が昨日、次のように書いているのは、負担増を早いところやっていけば、社会保障を相当に充実させることができたのに、今となってはかつてのようにはいかなくなっている・・・という思いがあるからである。

だいたいもって、いま与野党の政治家が読んでいる僕の文章は、初出が2003年の論文——7年も前から言っていることだ。無視されることになれているし、なにを今さらという感もあるから、まじめに話をする気も起こらない(笑)。

- この間、この国の国民負担率の引き上げに反対してきた人たちは、社会保障の機能強化を考えるとという視点からみれば、大罪なんだよ。
- 次などをどうぞ。
 - 勿凝学問 229 [日本の財政戦略に関する私見への覚書——先日の『週刊社会保障座談会』でいつのまにか抜け落ちていた一文](#)
 - 勿凝学問 306 [負担増のタイミングと社会保障の取り分](#)
 - 勿凝学問 310 [「日本の経済・国民生活を守る仕事に就く者たちが挙国一致で取り組むべき課題」の意味](#)

それにしても、政治ってのは、ほんっと面倒だ。昔から僕が講演でよく使う次のスライドは、2年半ほど前の2007年11月22日の記事。

財政改革研究会の中間とりまとめ

- 自民党の財政改革研究会(財革研=会長・与謝野馨前官房長官)は21日、消費税率を2010年代半ばに10%程度に引き上げること掲げた「中間とりまとめ」を公表した。消費税の使い道を年金など社会保障給付の財源に限り、名称は「**社会保障税**」に変更するよう提言。

—『朝日新聞』2007年11月22日朝刊1面

- 顧問 谷垣禎一、会長 与謝野馨



この国の進むべき途は、とうの昔から決まっているのに、遅々として進まず。そして今や、手遅れの感なきにしもあらずなのに、世間では、「あなたは消費税の増税をどう思いますか？」などというバカな世論調査が、日々行われている。

次は、先週の健康マネジメント研究科での講義あたりで話したことだけど、ここに書いているような事実を知らない人たちに、「あなたは消費税の増税は賛成ですか？」と聞いて、なんの意味があるんだろうかね。

2009年度予算の財政赤字額は決算で50.1兆円、2010年度は当初予算で40.6兆円。消費税を1%上げると、およそ2.5兆円税収が増加するといわれていますので、財政赤字額を消費税で換算すれば、2009年度は消費税率20%相当の赤字、2010年度は約16%分の赤字となります。

なお、所得税の最高税率を1%上げて得られる財源は約430億円で、消費税率1%分の17%程度です。そして、日本の国防費は、国の方針としてGDP比1%程度が堅持されており、それは5兆円前後、つまり消費税率で約2%でしかありません。ちなみに子ども手当の満額支給は国防費を超えるし、昨秋の事業仕分け第1弾で出てきたお金は6,900億円で消費税1%分の3%弱。

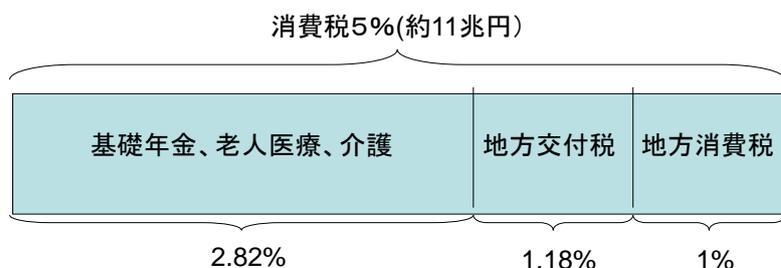
こうした、「物事の判断をするのに必要となる条件を備えていない人たちに質問をするという」世論調査がただひとつの意味をもつのは、政治家にとっての票読み。それ以外は、まったくと言っていいほどに意味がない。政治家や、ナイーブな民主主義を信じきっている人たちは、民意を反映する「票」の動向は、最も大切なことではないかと言うかもしれないが、国の経済や、国民の生活を守る仕事に就いている者からみれば、票の動きなどは

あまり大切な話ではない。国民が熱狂的に支持した政策を展開したために、あるいは国民が圧倒的に反対した政策を実行しなかったために、国が減んだ例は枚挙にいとまがなく、日本の税・財政政策については、まさにその例があてはまりそうな気配がある。

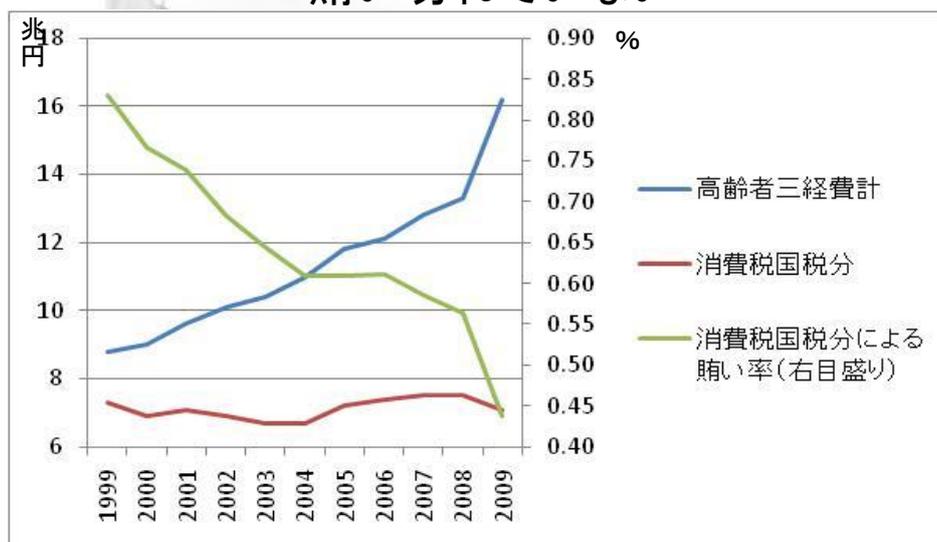
そして次も、むかあしから、授業や講演でよく使うスライド。

現行の消費税

- 1999年度以降、毎年の**予算総則**で、消費税収入の内国税分(5%の内1%は地方消費税であり、4%の消費税の内29.5%は地方交付税として地方へ。ゆえに消費税収の国税分は $(5\% - 1\%) \times (1 - 0.295) = 2.82\%$ であり、消費税5%の56.4%)の用途を基礎年金、老人医療及び介護に限るとし、以降、毎年、高齢者3経費に充てられている。税法で用途を限定していないため、目的税化とは言わない——しかし、**現在の消費税は、地方分を除けば、実質的には社会保障目的税**なのである。



ただし、高齢者3経費は目的税で賄い切れていない

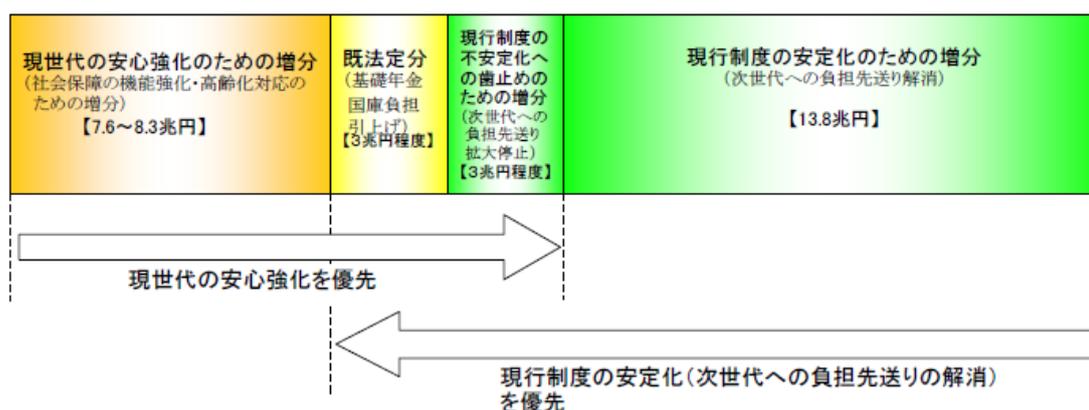


[勿凝学問 316](#) に書いている「高齢者三経費のスキマの埋め合わせ」というのは、上の図の高齢者三経費と消費税国税分の差額を増税した消費税で埋めるということで、「消費税の使い道を社会保障に限る」という言葉とは、なんら矛盾はしない。つまり、その時、社会保障の給付は一円も増えない——ということは、詐欺でもなんでもなく、誰が政治を担当しても、そうならざるを得ない厳しい制約条件が、この国には課されているのである。ちなみに、2010年度でスキマは約9.8兆円で、これを埋めるには消費税にして4%が必要であり、もし国、地方の配分割合を維持したままだと6%強の増税が必要となる。

このあたりについては、今から1年半以上前の2008年11月20日開催の経済財政諮問会議でなされていた議論をみてもらいましょうかね。

- [安定財源の充当についての考え方について \(内閣府提出資料\) \(PDF:212KB\)](#)

(参考) 安定財源充当の2つのアプローチ



あの頃は、社会保障機能強化と財政再建の対立を、「現世代の安心強化」と「現行制度の安定化（次世代への負担先送りの解消）」という言葉で議論していたわけだけど、社会保障の機能強化のライバルである「現行制度の安定化」、つまり財政再建が、ギリシャに端を發してソブリンリスクに対する内外の市場の目が厳しさを増して以降は、「国家財政へのマーケットからの信任」というふうにかたちを変えて力を増してしまったわけである。

ということで、履修者の君たちは、「今やデフレだけが社会保障の味方」と僕がよく言っている意味を考えておきな。ヒントは、敵の敵は味方。。まあ、日本が今インフレに苦しんでいるんだったら、日本の社会保障の機能強化は諦めなきゃならないだろうけど、幸いにも日本はデフレ下にある。。なお、「勿凝学問 306 [負担増のタイミングと社会保障の取り分](#)」には、次の言葉がある。

デフレは、負担増の中の社会保障の取り分にとって有利に働き、財政再建には不利に働く。とはいえ、デフレであるからといって、今の財政状況はこれ以上

の財政悪化を容認することが難しいところまできている。

[勿凝学問 306](#) を 5 月 19 日にアップした翌日の峰崎財務副大臣の会見。

○ [峰崎財務副大臣記者会見の概要](#) (5 月 20 日)

問)

先ほど国民負担率の話をされましたけれども、この国民負担率の望ましい水準、それと将来負担も含めた潜在的国民負担率の望ましい水準、それぞれどの程度というふうにお考えなのか、その点をお聞かせください。

答)

．．．

国民負担率ですが、50%が良いとか悪いとか、この間経団連も大分少し変わってきたように思いますが、私は前々からお話をしているように、世界の国々どこを見ても先進国でいわゆる社会保障を除いた基礎的な経費というのはそう大きな差はないのです。つまり公務員でやらずにはいけない分野、あるいは公共事業を含めて、教育費もそうですが、それほどいわゆる国の支出の大きさというのはそう差はありません。何で差がつくかという、社会保障費の大きさによってつくのです。それは慶應大学の権丈先生がよく指摘をされている点でありますから、皆さんもそれをご覧になっていただきたい。ですから小さい政府であれば小さい社会保障と。大きい政府は大きい社会保障と。つまり我々がどんな社会保障水準を望むかによって決まってくるわけでありますから、我々がどんな社会保障を求めるのですかと、その作業は恐らく 2 年前の社会保障国民会議が医療、介護、年金、それから子育て、これらについてのシミュレーションをやったデータがございますから、それを見ていただくと分かると思います。ただ日本はそのことを言っていれば済むかという、GDP 比で 180% を超えるような財政赤字を持っていますから、これをどうするのだということも併せて考えないといけない時代になっているのではないかなというふうに思います。

．．．

私はどちらかという、社会保障を重視した方が良いというふうに思っている方ですから、それでいてもおそらく、これから全ての国民にお願いをする分担してもらった税だとか、社会保険料はちょっと別ですけど、**税の引き上げなどを全て例えば社会保障に回します**というふうにはなかなか言いづらい状況に来ているのかなというふうに思っています。ある程度やはりこの**財政再建にも使わざるを得ない状況**になっているのかなと。これは時間が経

てば経つほどおそらく、それが膨らめば膨らむほど財政再建に費やす量が増えていくと。その分社会保障に回る分が少なくなるというふうに思っていますので、そこはぜひ国民の皆さん方にそういうふうに考えてもらった方が良いのかなと、私自身はそう考えているということでございます。東洋経済の経済特集の中で、何か社会保障重視派で大きい政府の中に私だけが名前が載っていましたので、多分そういう答え、そういうふうに私が考えているからそういうふうに載ってしまったのかなと思っていますけれども。菅さんが「...」と私の方に来始めているというふうな図が描いて、誰が作ったのかなと思って興味深く見ましたけれども。

追記——政治ってのは、面倒だという話に関連して。

- [怒りおさまらぬ小沢氏 “対決宣言”](#) 産経ニュース

次の言葉は、僕にとっては、意味不明・・・

「政権を取ったら、カネがないからできませんなんて、こんなばかなことがあるか。約束できないなら言うな。必ず私が微力を尽くして、約束通り実現できるようにしたい」